

静岡県 御前崎市



学び歩き 白羽地区 マップ



指定文化財HP



所在地地図



学び歩きマップHP

白羽の由来

白羽神社の最初の祭神の名前(長白羽のみこと)から付けられたという説と、万葉集に詠われている志留波が転化したとの説がある。日本最古の歌集・万葉集に収録された防人の歌に「遠江 志留波の磯と爾閉の浦と合ひてあらば言も通はむ」とある。御前岩を頂点に西は尾高から、北は地頭方に至る荒磯の岩に砕ける白い波の景観から付けられたと解され、713年(和銅6年)に二字の嘉名を充てよという詔から現在の「白羽」の名となったと伝えられている。 ※嘉名=良い名前

お問い合わせ

■御前崎市役所 社会教育課
御前崎市池新田 5585
TEL.0537-29-8735

■白羽地区センター
御前崎市白羽 5403-20
TEL.0548-63-3690

2024年3月現在 第3版

1 紅雲寺(こううんじ)

MAP B-2



御前崎市指定文化財(第7号)

紅雲寺は十一面観世音菩薩を御本尊とする曹洞宗の寺院。創建は828年(天長5年)といわれるが、はっきりしていない。

弘法大師の作と伝えられる薬師如来立像と日光・月光菩薩、十二神将を所蔵する。

遠州三十三観音札所十番「魚藍観音」、遠州十二支霊場丑寅「虚空蔵菩薩」を祀るなど、古来より地域の人々の信仰のよりどころとなっている。

2 神子の芋爺さんの供養塔(西宮八幡神社)

MAP B-2



神社は白羽神社が勧請された年代に創建されたと伝えられ、御神木のシイの木は樹齢300年以上といわれ、目の高さの幹囲が8.8mに及ぶ巨木である。

3 星の糞遺跡(ほしのくそいせき)

MAP C-1



御前崎市指定文化財(第3号)

縄文時代前期(6千~5千年前)と奈良時代(710年~794年)の遺跡。

遺跡の特徴として、縄文時代の漁業用のおもり(石錘)やスクレーパー(へら)、黒曜石の剥片の出土が多い。黒曜石は、その大半(80~90%)が伊豆諸島の神津島のもので、そこからここに持ち込まれたものと思われる。「星の糞」とは、その黒曜石の剥片が太陽の光を受けるとキラキラと輝くことからそう言われた。

4 増船寺(ぞうせんじ)

MAP C-2



御前崎市指定文化財(第5号)(地蔵尊立像)

1450年(宝徳2年)、僧・普蔵了存が小松原という地に創建した「蔵泉寺」が始まり。現在地には1747年(延享2年)に移転。古書に「このところ、風災の憂いなく、水豊かにして海岸の良地を選びて移転す」とある。

寺宝として青銅製の地蔵尊立像、円山応挙作の幽霊画がある。毘沙門天を祀る遠州七福神の霊所。境内では梅や桜、アジサイ、緋桐の花などを楽しむことができる。

5 馬頭観音堂(ばとうかんのどう)

MAP C-3



創建は定かではないが、棟札に「文政4年巳年(1821)修理」、手水鉢に「文化11年4月」、「明治5年」と刻まれ、社領船、出来船など地元の地引網の船仲間が奉納している。

お堂は、当初南を向いていたが難破船が絶えなかったため、向きを東にしたところ難破が減ったという。

6 白羽神社(しろわじんじゃ)

MAP C-3



御前崎市指定文化財(第1号)(本殿)

御前崎市指定文化財(第16号)(マキの木)

天津日高彦火火出見尊(山幸彦)と豊玉姫命、玉依姫命の3柱を祀る。

837年(承和4年)、現在の駒形神社の社地より遷宮。そのころの白羽は国営の馬牧「白羽官牧」が置かれ、馬の守護神として崇敬されていた。

武田徳川の戦いで社殿を焼失したが、現在の社殿は江戸時代中期から後期の時代傾向が認められる。

源頼朝以来、今川、武田、徳川など代々の武将の朱印、黒印の寄進があった。御神木のマキの木は交通安全、受験のお守りとして信仰が厚い。

7 万葉歌碑(まんようかひ)

MAP D-5



奈良時代、軍務に向かう防人が故郷に残した恋人をしのんで詠った恋歌。「遠江 志留波の磯と爾閉の浦と合ひてあらば言も通はむ」。(遠江の白羽の磯が二エの浦のように、向かい合っていたならば言葉も通うものを、ああ、私はそれも叶わないほど遠くに来てしまった)という内容。「志留波」は、「白羽」のことで、白羽の地名は遠州に3カ所(御前崎、磐田、浜松)あるが、江戸時代の国学者、賀茂真淵は御前崎説を唱えている。

8 白羽の風蝕礫産地(しろわのふうしょくれきさんち)

MAP D-5



国指定天然記念物

尾高地区では、砂が長い年月をかけ石の表面を削り取り、美しい稜角を持った風蝕礫が形成された。昭和18年には、国の天然記念物に指定された。

全国的にも珍しいそのメカニズムは、①強い風が吹き、砂が飛びやすい。②強風が主に冬場に吹き、風蝕現象に都合がよい。③風が一段と強く吹き付ける地形。④丸く磨かれた風蝕に都合の良い石がある。⑤西に砂丘を控え固い石英質の砂が多いことによる。発見当時は、たくさんあった風蝕礫は、今はほとんど見ることができない。天然記念物であるため持ち出しはできない。

9 亀塚大明神(かめつかだいみょうじん)

MAP D-4



海亀の死骸を祀った墓。駒形・白羽神社の社伝によると、神様が遭難船から海亀に乗って無事上陸したとある。海亀は竜宮の使いであり、大漁を導くとして信仰が厚い。五代將軍・徳川綱吉が出した「生類憐みの令」を受けて、当時御前崎村では海亀の捕獲や殺傷を戒める誓約がされている。岬の海岸には海亀を祀った塚や祠が多くある。

10 庚申堂(こうしんどう)の湧き水

MAP D-3



夏冷たく冬温かい湧き水。地域住民の洗濯場、コミュニティーの場となっている。

16世紀に、高天神落ち武者高塚家が持ってきた庚申様を祀った祠があることからこの名がある。

11 御越休(おこしやすみ)

MAP D-3



白羽神社の御神体が、元宮駒形神社にお渡りになる神輿渡御の神祭儀が行われていた時代に、お休み場所となったところ。

この行事は御前崎村が地頭方村の枝郷となる慶安年間(1648年~1652年)まで行われたと白羽神社誌に記されている。

同所には、遠州地域では浜松の鴨江神社、浜北の庚申寺と合わせ三体しか確認されていないという役行者の石像、庚申仏青面金剛童子の石造、千手観音像を祀った祠がある。

12 宗心寺(そうしんじ)

MAP D-3



宗心寺は、元和年間(1620年頃)に旅の修行僧が寄進した薬師如来像を祀るため、1640年(寛永17年)に本寺増船寺二世・祥山存悦和尚により薬師堂が建立されたことに始まると伝えられる。薬師如来像は秘仏であるが、60年に一度御開帳が行われる。古くから「新谷のおやく様」として親しまれ、特に病気平癒・漁業安全に御利益があると信仰を集めた。

境内では季節によりフジ、アジサイなどの花を楽しむことができる。

13 切干し爺さんの碑(きりばしじいさんのひ)

MAP E-2



芋切干の原型を考案した栗林庄蔵翁を顕彰する碑。1800年(江戸時代中期)に入り、小規模な農業を営む傍ら農産物や海産物の行商をしていた庄蔵翁は、重い割に利益が少ないサツマイモを、煮て、薄く切って天日に干す現在の「芋切干し」の原型を作り出した。芋は、当初包丁で切っていたが、その後、地域では「べんべん」とよんだが考案されたことで、芋切干し製造はより盛んになり白羽村の重要な産業に発展した。

14 地藏原(じぞうはら)

MAP E-2



白羽地区で一番標高が高いところにある雑木林の西の道端に3体の地藏がある。昔、船が遭難した時、お地藏様が現れて導いてくれたので生存者がそのお札に建てたと伝えられる。雑木林は海難者を祀った所とされる。

15 小川延命地藏(こがわえんめいじぞう)

MAP E-4



江戸時代の終わりころ、当地一帯に疫病が流行し、多くの人が苦しんだ。そこで、焼津の小川から延命地藏の仏像をいただいてきて病気平癒を祈願したところ救われたという。「いば取り地藏様」としても靈験あらたかといわれ、また、現在では交通安全のお地藏様として土地の人に崇拝されている。

16 汐見台(しおみだい)

MAP E-5



昔、薄原地区に沢船という地引網船仲間があり、「あかみ」といわれる魚群を監視する場所をつくった。魚群を見つけると丘の上まで駆け上がり「ホイ、ホイ、ホイ…」と仲間を呼び集めて出漁した。

今では地引網は行われていないが、まちづくり委員会が当時を偲び、遠州灘が一望できる展望台をつくった。

静岡県御前崎市 白羽地区学び歩きマップ

